—鳥羽小学校体育館竣工式典あいさつ（抜粋）—

運営委員長 岩佐 肇

以前の体育館は、東京オリンピックが終わり、いざなぎ景気へのきざしが見えはじめた頃、時を同じくして、既に着手されていた「西明石土地区画整理事業」が軌道に乗り始め、やがてはこれが夢から現実へと、ここ鳥羽の発展に確かな手応えが感じられるようになった昭和41年、時代を先駆けるカマボコ型のユニークな建物が完成しました。

以来、この体育館は、45年の長きにわたり、学校教育の更なる充実と共に、災害時における避難所や各種ボランティア活動の場に供されるなど、地域コミュニティの形成・発展に大きな役割を果たしてきました。

しかし、この建物は経年による老朽化に加え、あの兵庫県南部地震による建物本体の弱体化は如何ともし難く、体育館の早期建替えを求める声が学校関係者のみならず、地域全体に広がっていきました。

体育館はその時既に、数々の学校行事の中核施設として、更には、社会の成熟化が進展する中、地域のコミュニティ活動やスポーツ振興に欠かすことができない地域の共有財産として、住民意識が定着しておりました。

それだけに、何としても実現しなければならず、以来10年余にわたり、鳥羽まちづくり協議会やPTAなどが中心となって、明石市に対し、粘り強く建替え交渉を重ねて参りました。この間、何といても平成19年の地域の皆様による2800人余の署名であります。この署名は、地域の体育館建替への熱い思いが凝縮された信念の現われであり、私共、交渉の窓口にある者にとって、誠に心強い応援団でありました。

こうした地域の熱意と長年の願いが、この度、北口市長のご英断によりかなえられ、本日でたく竣工式を挙げる運びとなりました。ご関係の皆様を重ねて深く感謝申し上げる次第でございます。

子ども達は、いずれ、この学校から未来に向けて大きく羽ばたく日がやってきます。その日のために、地域コミュニティの発展と共に、健やかな子どもの育成に大いに活用させていただきますことを、ここにお誓い申し上げたいと存じます。

鳥羽小学校の児童・生徒の皆さんおめでとう。この体育館は今日から皆さんのものになります。卒業式も入学式もそして音楽会も雨の日の体育の授業も全てこの新しい体育館で行なわれます。この日の感激をいつまでも忘れず、大切に使って下さい。

とりわけ、六年生の皆さんには、もうすぐこの体育館で卒業式が行われます。中学校に進んでも鳥羽小学校で学んだ誇りと愛着をもって、鳥羽っ子らしく、勉強に仲間づくりに励んで下さい。